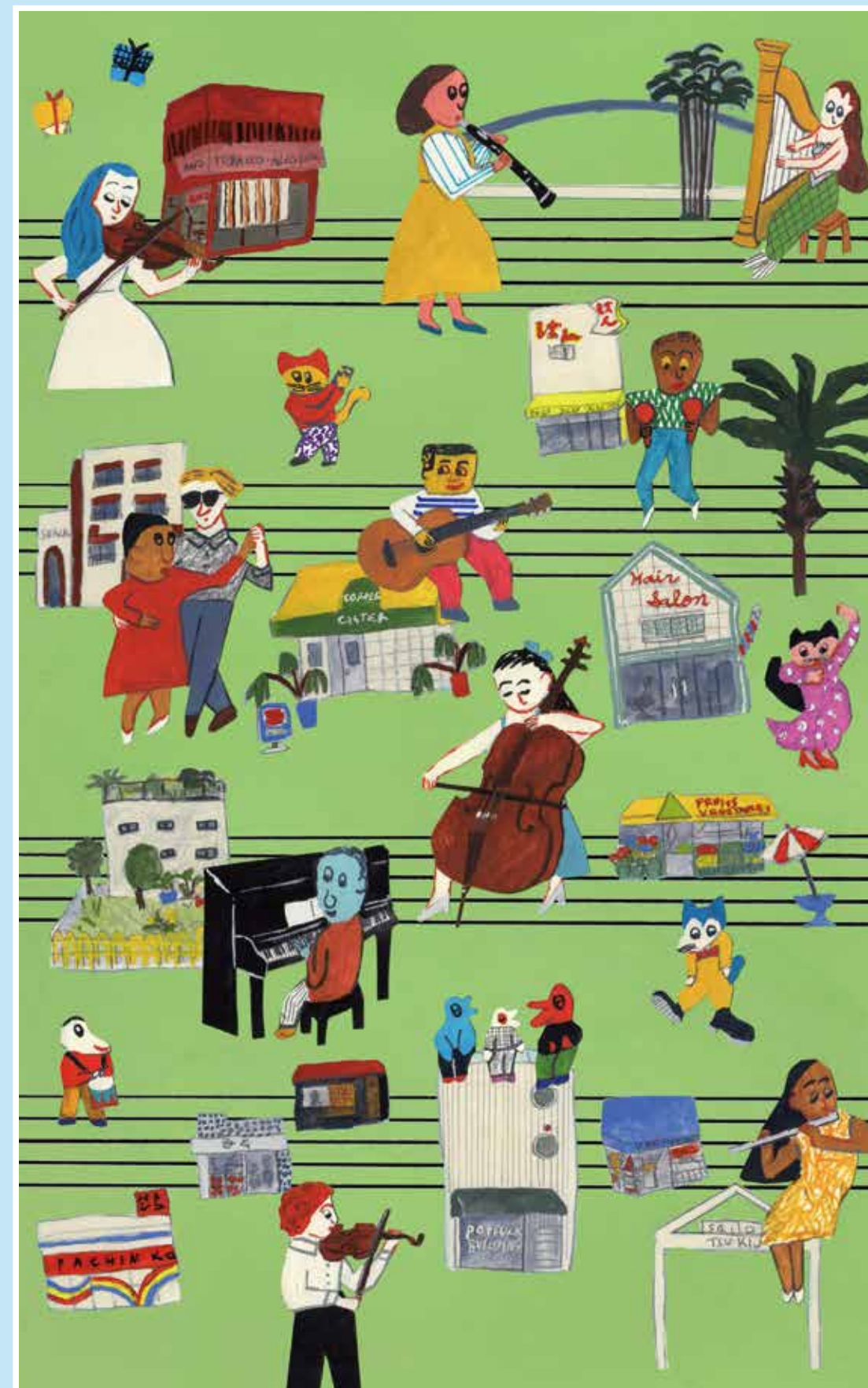


○+△+□=💡



港まちづくり協議会 2023年度報告書

JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN
ANNUAL REPORT 2023

Introduction

ストリートピアノが全国の駅や商業施設に置かれ、通りすがりに生の音楽を耳にする機会が近ごろ格段に増えました。私たち港まちづくり協議会の活動エリアである港まちでも、街に音楽のある風景を目指し、クラシック音楽を取り入れたまちづくりを行ってきました。誰しもの日々の生活の背景には、個人だけでは解決できない社会問題が見え隠れします。私たちは、そんな日々に向き合う街の皆さんの日常風景に少しでも楽しくて華やかな彩りを音楽を通して届けたいと考えています。ある時は個人宅でのお誕生日パーティで、またある時はお肉屋さんの軒先で。多彩なクラシック奏者たちとの港まちでの取り組みをコーディネーターの方々の考えや諸団体の活動にも触れながら紹介していきます。

Contents

- 01 街でどこまでできるのか？
音楽×まちづくりのこれまで
- 03 ふらっと行ける音楽室と、
コラボレーション音楽会
- 05 地域のお店や道端のミニコンサート
- 07 コーディネーターにインタビュー
- 08 他団体との連携と、地域とコンサート
- 09 数字で振り返る2023年度データ



港まちづくり協議会 2023年度WEB報告書
WEB | www.minnatomachi.jp/report/2023.html

※港まちづくり協議会では、冊子版とWEB版の年次報告書をご用意しています。

街でどこまでできるのか？ 音楽×まちづくりのこれまで

音楽を用いたまちづくりは、街の人々やコーディネーターと協働し、推進力を高めながら事業を実施してきました。2019年の年末からはじまったコロナ禍に多くのイベントが中止となる中で、企画していた音楽会は、縮小や屋外で開催するなど対策を行いながら実施したものもありました。集まることの難しい時期にも、空間に響く音楽が、そこに居合わせた人々を結び、一人ではないという実感を与えてくれました。

時と場合によって求められる音楽の在り方は異なります。そのため私たちは、2つの方向性で企画を考えてきました。一つは港まちの皆さんに音楽を愛でてもらうこと。例えばクラシック音楽に興味はあっても「難しそう」や「時間がない」などの声に応える企画を。もう一つは、港まちを舞台に街の内外の人々がみんなで楽しめるコンサートを。そして時には、それらをイベントの集客力を高めるコンテンツとしてコラボレーションさせることもありました。

一口に音楽の在り方と言っても、そのアプローチは、港まちに住む人、働く人、訪れる人など多様な人々の数だけ存在します。私たちが取り組んだ、生の音楽を届けるさまざまな活動を振り返ります。



1 突然始まったブティックでの演奏に、通りすがりの人々が店内を覗き込む
2 親子連れがイベントの合間に思い思いに聴く演奏
3 「ここを弾くと音が鳴るよ」。夏休みの思い出は、はじめて触れるヴァイオリン

4 整体、ストレッチ、ピアノの音色が交わる高齢者サロン。体が大きく動き出す！
5 「私、伴奏してみてもいいですか？」。参加のかたちは自分で決められる音楽室
6 体育館に響くのは、声楽家の迫力のある歌声！懐かしいあの曲を、成人の皆さんに贈ります

ふらっと行ける音楽室と、コラボレーション音楽会

コーディネーター岩田彩子さんと実施してきたのは、主に地域に在住・在勤の人々が音楽を愛でることのできる環境作り。それは音楽に触れることをきっかけに、誰もが訪れることのできる居場所を増やすだけではなく、そこに集まった人同士「楽しかった」「また来たいね」と会話の弾むような場であり、その日の演奏を振り返って誰かに話したくなるようなその先の広がりも作るお手伝いです。

安心できる音楽のある場

みんなとまちの音楽室

地域の方が足を運んでくれるようになった企画があります。地域のコミュニティセンター（以下、コミセン）に月に数日間、行けばさまざまな音楽家が待っていて音楽を楽しむことができる「みんなとまちの音楽室」。ピアニストやヴァイオリニストたちが交替で約1日滞在します。伴奏をリクエストして思い出の曲を歌ったり、心地よい音楽をただ聞いていたり、音楽の話で盛り上がりたり、合奏したりと使い方はその人次第。

2022年に始まったこの企画のスタートには、地域の中で練習場所を探していた音楽家たちとの出会いがありました。家庭で不要になったピアノをご寄付いただき、コミセンの中に地域に開かれた音楽のある場を用意したのです。3年目を迎える2024年には、0歳から80代までの幅広い年齢層の方に参加いただけるま

でになりました。コミセンでは、地域の方々が運営する子育てサロン（※1）や子ども食堂（※2）などがありますが、その活動日に合わせて「みんなとまちの音楽室」を同時開催し、活動の特別感を演出しPRを重ねました。その結果、この事業のファンが増加し、リピーターの増加につながりました。今では、小学生が夏休みに宿題の相談に来たり、未就学児を連れた方がお出かけついでに寄ってくれたり、地域のコミセンにちょっと特別な場があるという認識を持ってもらえているようです。

※1:子育てサロン「西築地学区 まりん」
主催 | 西築地学区地域福祉推進協議会
※2:みんなとまちこども食堂
企画運営 | みんなとまちこども食堂ボランティアグループ



みんなとまちの音楽室の様子

みんなとまちの音楽室のチラシ

2ヶ月に1回程度発行している開催日をお知らせするチラシ。親しみを持ってもらえるように開催風景の写真を表面に使用し、統一されたデザインから「あのチラシね」と言っていたくようになりました。町内会の回覧板で広報をサポートしてもらっています。



地域と一緒に考えつくる演奏会

みなとまちコンチェルト

この演奏会は「地域の方々と一緒につくる」ことを大切にしました。企画の場を開き、コンサートを楽しむためのアイデアに地域の声を反映しました。内容を全て「お任せ」で請け負ってしまうのは単なる「素敵な演奏会」になってしまいます。そこで、誰にどんな状況でどんな想いを届けたいのかを話し合い、時には音楽家もそこに加わりました。

街中のさまざまなシーンで音楽を楽しんでもらえるよう、高齢者サロンのファッションショーや、100歳を迎えたお母さんのお祝いとして、また地域の小学校で開催された成人を祝う会でもコンサートを行いました。そういった演奏会で生まれた数々のシーンは、今も忘れられません。ランウェイを歩くという目標を持って歩行訓練に精を出した結果、杖がいなくなった方、

独居の方の誕生日会をきっかけに互いの体調を気遣う人の輪が広がっていく様子、間近で聴く本物の演奏に涙する姿などなど。特別な一日に音楽を添えたことで、それぞれが抱える漠然としていた不安や課題の輪郭が見え、本人の意識の変化や、周りへの波及効果など、次へのステップに繋がるような事例が起きてきました。音楽を届けるこの企画では、関わる人々の想いを音色に乗せて演奏会を作り上げています。



1. ばあば工房の着ものリメイクファッションショー

2. 由良海運株式会社での仕事納め 3. 西築地小学校での成人の日の集い



道行く地域内外の人々に音楽の音色が届くように

地域のお店や道端のミニコンサート

コーディネーター北川明孝さんと実施してきたのは、地域内外の人々が楽しめて、街の魅力に出会えるための仕掛けつきコンサート。街なかで聞こえてくるのはよく知ったメロディーや、本格的なクラシック音楽。入ったことのないお店を覗いてみるきっかけになる小さなコンサートは、どのように育まれてきたのでしょうか。



江川線歩道での演奏(ポットラックバザール presents 港まちブロックパーティー meets みなと土曜日)

音楽が街を流れるように

ミュージック・クルーズ

港まちのあちこちで時間になるとミニコンサートが行われる日があります。私たちが毎月開催する街なかマーケット「みなと土曜日」(*)には、他のマーケットと異なる特徴として、音楽家はその日の様子や状況に合わせて15分ほどの演奏を行います。演奏されるのは、耳馴染みのあるクラシックから演歌まで。道行く人に、いつもと違う街の様子を楽しんでもらうのですが、この企画、それだけではありません。音楽家が、みなと土曜市の出店者や、港まちの店舗と積極的にコミュニケーションを図って、さまざまなエピソードを聞き取ります。そして、それを演奏に反映させる。これが、コロナ禍にコミュニケーションの在り方を考える中で、みなと土曜市の運営事業者、コーディネーター、音楽家が一緒に作り上げてきたひとつの形です。この企画に携わる音楽家は、普段のコンサートとは違う人々と

の関係性を作ってみたいと考えるチャレンジ精神を持つ方々。そのため、お店の近くやお店の中で演奏する際に、商品や店主の経歴のご紹介が始まることもあれば、お客さんたちとの談義に花が咲くことも。音楽家が定期的に港まちを訪れて演奏することで、そのファンの皆さんを地域の新たな来訪者として呼び込むといったPR活動にもなっています。地域の方にとっても、音楽家と関わることでそれまで見えてこなかった地域の魅力に出会い直してもらえる機会になっていって欲しいと考えています。

※みなと土曜日
毎月第2土曜日に路上や歩道にお店が立ち並ぶ街なかマーケット。コンセプトは「まちで楽しむ、まちを楽しむ、さまざまなチャレンジが生まれるマーケット」
主催 | 港まちづくり協議会
運営 | みなと土曜日実行委員会(セン、株式会社レジスタ)

ミュージック・クルーズの広報

音楽家に対して親しみを持ってもらおうと、ポップな印象の広報画像を作成しました。デザインを演奏箇所での看板や、移動時の手旗にも反映させ、港まちポットラックビルに活動の様子を掲示しました。



PROJECT

ミュージック・クルーズ2024「勝手に看板娘」

岡田薫子さん(フルート奏者)

2024年は音楽家にキャッチフレーズを付けて活動を行いました。その名も「勝手に看板娘」。「勝手に」と「看板娘」は相反するイメージの言葉ですが、岡田さんの持ち前の親しみやすさを受けて、本人と一緒に考え生まれた街へのアプローチ方法です。街なか演奏のうち、調剤薬局やヘアサロン、喫茶店での演奏は、みなと土曜市の来場者だけでなく、地域の方でも機会がないと入ることのない店内での演奏を中心に実施しました。どのご店主も快く引き受けて下さったのですが、初めての入店で起こる席の譲り合いや、どこことなく落ちつかない姿が、岡田さんのお話と演奏がはじまると自然とほぐれていく様子が印象的でした。



1



2



3



4

1 江川線歩道 2 築地口商店街 3 ヘアサロンいとう 4 きっさ姉妹

クルーズ名古屋

名古屋市が実施する、名古屋の街なかや名古屋港を巡る定期運航便「クルーズ名古屋」。名古屋駅近くのささしまライブと金城ふ頭を結ぶ中川運河を航行し、港まちエリアのガーデンふ頭にも寄港します。水上バスに乗り込むと、陸からでは見ることができない景色が見られ、非日常の空間を楽しめます。面白い取り組みとして、水上バスの音楽便「MUSIC CRUISE」があります。クラシックの音楽家として名古屋を中心に活動している魅力ある若手奏者の方々をON music project がコーディネートし、船上で奏でられるクラシックとクルージングを楽しめる素敵なイベントです。



クルーズ名古屋「MUSIC CRUISE」の様子

コーディネーターにインタビュー

音楽事業の運営をお願いするお二人に、港まちでの活動について伺います。「音楽が人と街との架け橋に」と街場での音楽の在り方を語る岩田さんと、港まちで方法の異なる2つの「ミュージック・クルーズ」を運営する北川さん。お二人は、どのような視点で音楽家を推薦しているのでしょうか？地域に活動が浸透してきた今、港まちではさまざまな状況が生まれているようで…。

VOICE

岩田彩子さん（チェロ演奏家／教育家／音楽コーディネーター）

みなとまちの音楽室／港まちコンチェルト運営



小学校～大学までの6つの学校の非常勤講師を務め、ジュニアオーケストラ～70代までのアマチュアからプロを目指す学生まで、幅広くチェロ指導を行っています。生涯学習、音楽家の社会接合、音楽の社会的処方に興味を持ち、コンサートや、音楽を取り入れた企画、音楽教育活動を多数展開中です。

思いに共感してくれる奏者たちと

お願いしている奏者さんたちは、まちづくりの場での音楽のコンセプトをしっかりと理解してくださっている方々なので、良い距離感を掴んで実践してもらっています。音楽室にはいろんな方が来るので、人数や年齢層によってその場のバランスが変わるときに奏者に場を制御する力が求められますけど、ペースを作ったりと機転も効いてきました。そのやり方は奏者のキャラクターごとですが、それぞれ魅力的な場が生まれています。音楽には3つの関与の仕方があって、人・曲・場にファンが付くと言われています。その3つは出来たので、港まちでの音楽事業に、もうひとつ新しい軸が生まれるとさらに発展していきそうですね。

小さな音楽室で良い循環が起きている

奏者はトライ&エラーを繰り返すというか、エラー&ラーンなのかもしれないけれど、「今まで自分に無かった引き出しが増えている」というような感想をもらいます。それってつまり、奏者が街に育てられているんですね。こちらが街に何かを与えられているなんて思っているわけじゃないですが、芸術を使った良い循環を、あの小さな音楽室の中に感じます。その場で何かが生まれるようなことが起きるんですよ。「私もその園の卒業生なの!」とか、多世代で子育てのお話しをしたり、また別日に今度は家族で来てくれるとか…それが街に住んでいる人たちの中で起こっているのがおもしろいんです。音楽を目的に来ていても、たまたま出会った人と、顔の知った関係になっていくのが良いですね。奏者にとって純粋芸術としての音楽は大切なことですが、自分の持っているリソースをどのように社会に対して使っていくかは考えなければいけないことなんです。奏者は、この事業を通して、それを学ばせてもらっているんじゃないでしょうか。

VOICE

北川明孝さん（ON music project代表）

ミュージック・クルーズ運営



「音楽家とコンサート」という2つの要素が重なる“接点”に最も意義を感じ、2010年よりコンサートの開催を志す。近年では、年間100公演以上のコンサート・イベントを開催し、その実績と経験をもとに、コンサートの枠組みを超えた他分野との協働プロジェクトや、まちづくり、さらには音楽家のサポートなど幅広い活動を行っています。

音楽家が“一人の人間”として街に関わる

音楽をやっている人たちって「どこか特別で、自分と同じ価値観を持っていないかもしれない」と一段構えて見られてしまう雰囲気があるとなくあると思っていて。それが土曜日の中だと、音楽という特殊な能力を持った人ではあるけれど、一人の人間として地域の人との関係を築きながら取り組んでいけるんじゃないかという気がしています。土曜日ではただのBGMにならないような音楽の活用のあり方を模索していて、2024年に演奏をお願いした岡田薫子さんは、出店者とのコラボレーションを自主的にしていて、人間力を使って楽しもうとしている姿を表に出せているなど。そういう姿を想像して、音楽家を選んでいますが、これまで3人の音楽家に土曜日での演奏をお願いしていますが、お話を楽しむことが好きでアナウンサー的にレポートするタイプや、知識や経験、音楽家であるというバックグラウンドを使って発信していくタイプと、同じ楽器（フルート）の方を選んできましたけど、それぞれなんですよ。

街と音楽家が応援し合える関係性はつくれるか

その音楽家の違いがどれくらい地域の方に浸透していくのかはまだ分からないですけど、地域の方がどう思ったかだけでなく、音楽家がどういうものを持って帰れたかというのも大事にしたいと思っています。休憩時間に音楽家がレトロ喫茶でお昼を食べて楽しんでいる姿を見ていると、港の魅力が新しい人にきちんと伝わっていると思うんです。港の良さって長く居続けると当たり前になってしまうような自然な魅力が多いじゃないですか。それが地域内外にも伝わっていくことが有意義なんじゃないかと。港まちでの演奏はもちろん、地域外で演奏をした時に地域の方が「うちの看板娘」として応援し続けるような関係性になると良いなと思っていて。音楽家も「実はフルート吹けます」ってほうが街と面白い関係性が作れていくのかもしれないですね。

他団体との連携と、地域とコンサート

最後に、港まちで実施した2つの音楽プログラムを紹介します。一つは、私たちと同じエリアを舞台に、時に協働し活動を実施している文化事業。もう一つは、音楽家が街の歌を作るというプロジェクト。これまでも港まちには多くの演奏家が訪れ、それぞれの得意を活かして街との関わり方を模索してきました。映像と共にその興味深い取り組みをご覧ください。

REPORT

アッセンブリッジ・ナゴヤの活動

港まちづくり協議会と対象エリアを同じくする音楽とアートの活動「アッセンブリッジ・ナゴヤ」。音楽プログラムでは、港まちのお寺やホール、幼稚園など様々な場所で人々に音楽を届けてきました。屋外イベントにおいても地域との多くのコラボレーションを手がけ、「名古屋おどり」など、盆踊りの曲目や、幼稚園児の発表会でクラシック奏者が演奏を行っています。

INFORMATION

2015年度から2020年度まで、音楽やアートが架け橋となり、港まちにある公共空間や空き家を会場に、これまでの歴史や人びとの暮らしに向き合いながら、アーティストとともに展覧会やコンサート、イベントなど多様なプログラムによるフェスティバルを毎年開催。2021年度からは、アーティスト・イン・レジデンスを中心とした新たな活動を行う。港まちを舞台にアーティストや表現者がまちに滞在し制作や活動を行うことで、まちや人びとが芸術と出会いつながりながら、新たな文化が育まれていくことを目指している。



ポットラックバザール presents

港まちブロックパーティー meets みなと土曜日での様子

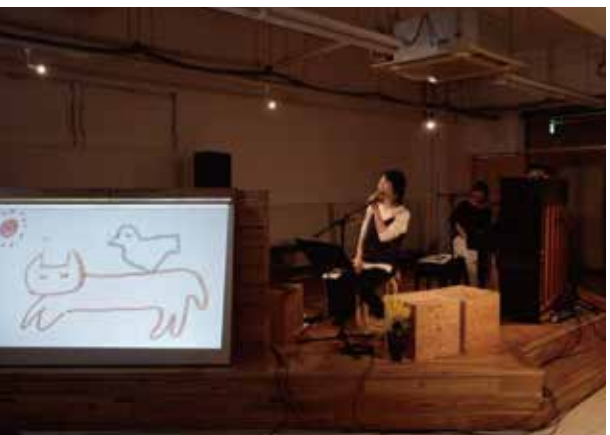
Youtube



REPORT

「みなとまちのうたコンサート」の開催

鍵盤楽器と声を用いたアンサンブルユニットのmica+hachi。2年間に及んだ彼女たちの楽曲制作は、港まちのお寺という風変わりな会場で開催されたコンサート「音景色ーオトケシキー」から。始めに決まっていたのは「みなとまちのうたをつくる」というテーマだけ。コロナ禍という特殊な状況もあいまって、関係者全員が「この船は一体どこに辿り着くのだろう?」という“わからなさ”を抱え続けた企画でした。しかし、そのプロセスから生まれた5曲は、どれも港まちがあったからこそその素晴らしい楽曲になりました。お二人が、どんなふうに関わりを感じ、それを咀嚼しながら「うた」や「メロディー」が生まれていったのか。その貴重なクリエイションの記録は、オンラインで結んだ対話の書き起こしとしても連載。プロジェクトのラップアップで開催した「みなとまちのうたコンサート」の動画と合わせてお楽しみいただけます。音楽家が「まちのうた」をつくる。その魅力と可能性がいっぱいに詰め込まれた素敵なおプロジェクトとなりました。



Youtube



Note



みなとまちのうたコンサートの様子

数字で振り返る2023年度データ

JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN ANNUAL REPORT 2023 DATA

開催事業数・テーマ別事業パートナー数

項目	開催事業数	テーマ別事業パートナー数
○ 暮らす LIVES	77	28
△ 集う MEETS	49	76
□ 創る CREATES	42	50
名古屋市要望事業	5	5

港まちづくり協議会の活動参加者数

○ + △ + □ = 延べ 35,588人

メディア掲載実績

2023年度のメディア掲載数は48件でした。昨年度に比べると、WEB、雑誌・広報誌での掲載数は同程度を推移した一方で、新聞・テレビの掲載数は減少しました。地域内外の皆さまに満遍なく情報をお届けできるようSNSでの広報により力を入れはじめましたが、活動地域での有効的な広報媒体については試行錯誤の連続です。引き続き私たちの取り組みをより多くの方に知っていただくためにはどうしたら良いかを模索し、周知に努めてまいります。

新聞	WEB	テレビ	ラジオ	雑誌・広報誌	合計
6	37	0	0	5	48

会計報告

2023年度の収入額は62,322,403円、支出額は60,121,672円で収支差額は2,483,334円となりました。支出内訳としては、「○心地よく安心な港まちで『暮らす』」が6,060,464円、「△魅力的でにぎやかな港まちに『集う』」が13,123,098円、「□みんなと港まちを『創る』」が40,938,110円（事務局運営費24,767,702円を含む）です。収支差額2,483,334円を名古屋市に返還しました。

項目	予算額	決算額
収入	62,322,403	62,605,006
支出	62,322,403	60,121,672
○ 暮らす LIVES	6,352,100	6,060,464
△ 集う MEETS	13,462,580	13,123,098
□ 創る CREATES	42,507,723	40,938,110
収支差額	0	2,483,334

(円)

港まちづくり協議会 2023年度報告書

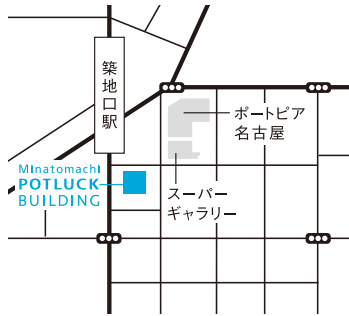
JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN ANNUAL REPORT 2023

2023年度 港まちづくり協議会メンバー（令和5年4月17日現在）

会長	早川 勝利（西築地学区連絡協議会推せん）
副会長	高崎 勇一（築地口商店街振興組合推せん） 長谷川 博久（名古屋市港区役所区政部長）
委員	小神 一夫（西築地学区連絡協議会推せん） 木村 清隆（西築地学区連絡協議会推せん） 澤田 伊佐男（西築地学区連絡協議会推せん） 松本 一男（西築地学区連絡協議会推せん） 池田 和貴（名古屋市総務局総合調整部総合調整室長） 渡邊 英一（名古屋市スポーツ市民局地域振興部地域振興課長） 伊藤 剛史（名古屋市住宅都市局都市整備部名港開発振興課長） 中野 勝之（名古屋市緑政土木局港土木事務所長）
事務局長	小河内 雅行（名古屋市港区役所企画経理室長）
事務局次長	大西 未来
事務局員	小田 ビニシウス 井上 恵理 倉田 果奈 土屋 未久

制作	港まちづくり協議会
編集	大西 未来、西村 隆登（港まちづくり協議会事務局）
表紙作品	ひらめぐ商店
編集アドバイザー	古橋 敬一
写真	北川 明孝、藤井 昌美、三浦 知也、倉田 果奈（港まちづくり協議会事務局）
デザイン	株式会社クーグート
印刷・製本	鬼頭印刷株式会社
発行	港まちづくり協議会 〒455-0037 名古屋市港区名港1-19-23 Minatomachi POTLUCK BUILDING TEL 052-654-8911 FAX 052-654-8912 E-MAIL info@minnatomachi.jp WEB www.minnatomachi.jp 2025年3月発行

WEB編集	倉田 果奈、土屋 未久（港まちづくり協議会事務局）
WEBデザイン	ブチグラフィックス



Cover story

ひらめぐ商店 日常なるほど作家

港まちを散策してみると、古くて面白いかたちの建物やレトロな看板文字が目を惹き、長くある商店街らしいお店が、いくつか現役で営まれています。そこには確かな生活の音があり、リズムがあるでしょう。するとその音に誘われた音楽家たちが一人、また一人と集まってきて、音を奏でるのです。いつしか町中で響き合い、いろんな人々や生き物が一緒になって音を楽しみます。こうして新しい生活のリズムが生まれるのかもしれない。